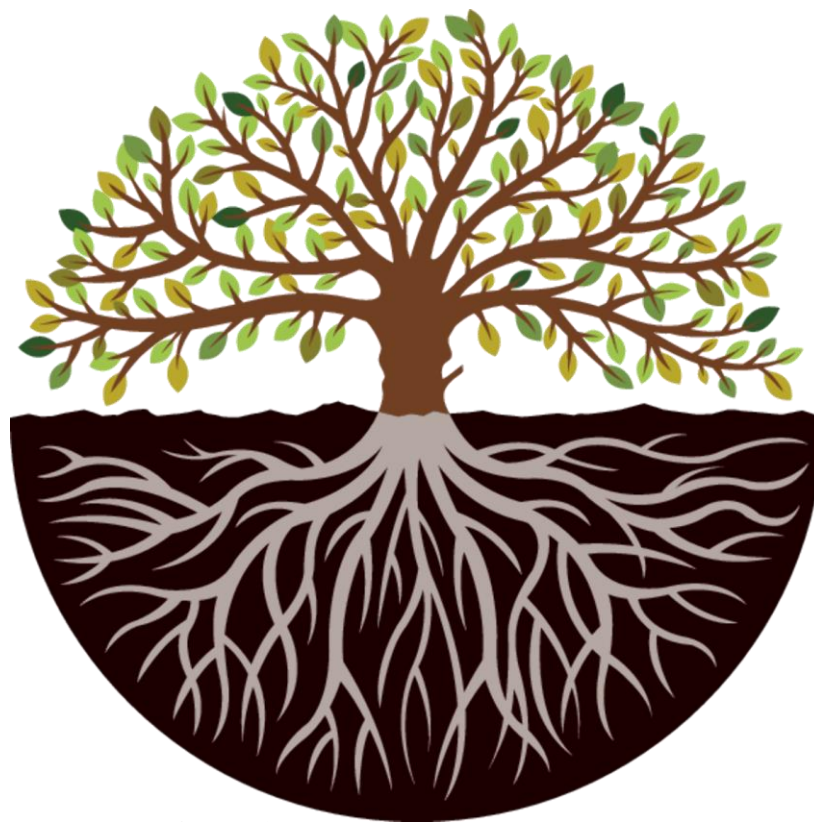




令和 6 年度山の炭素吸収応援プロジェクト パネルディスカッション

2025年2月19日

パネルディスカッションテーマ

テーマ1 森林吸収系J-クレジットへ非炭素プレミアム価値の観点加わることで期待される可能性について

テーマ2 非炭素プレミアム価値訴求における創出・需要者の連携について

モデレーター

五島 尚香 氏 （有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザリー事業本部）

パネリスト

石原 宏基 氏 （東急不動産株式会社 ウェルネス事業ユニット
ホテル・リゾート開発企画本部 ホテル・リゾート第二部 開発企画グループ）

高村 彰宏 氏 （三重県尾鷲市役所 水産農林課）

岸 卓弥 氏 （一般社団法人 more trees 渉外ディレクター）

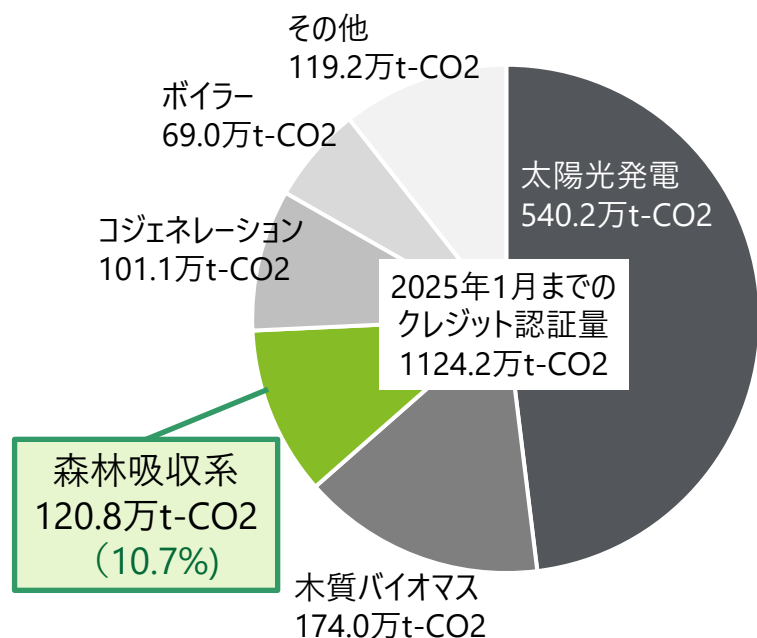
今井 尋 氏 （TOPPANエッジ株式会社 事業統括本部
企画販促本部 総合販促部 ハイブリッドDMチーム）

森林吸収系J-クレジットは、2025年1月末時点で累計120.8万t-CO₂認証されており、クレジット認証量全体の約10.7%を占めています。

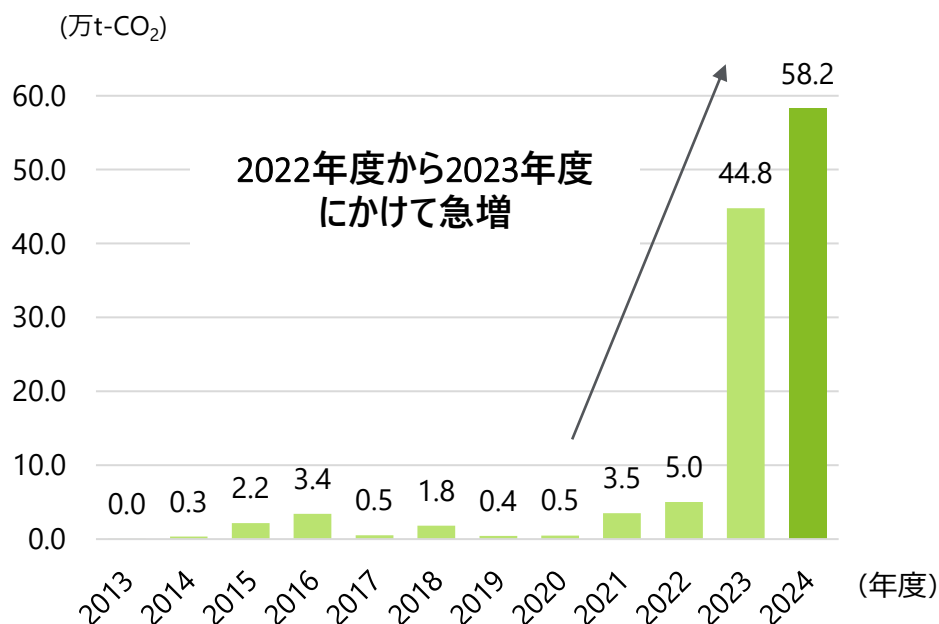
森林吸収系J-クレジットの認証量は2023年度以降急増しており、単年度ベースでは2023年度に44.8万t-CO₂、2024年度は2025年1月末時点で58.2万t-CO₂が認証されています。

森林吸収系J-クレジットの認証量

J-クレジット制度における
認証クレジットの方法論別内訳

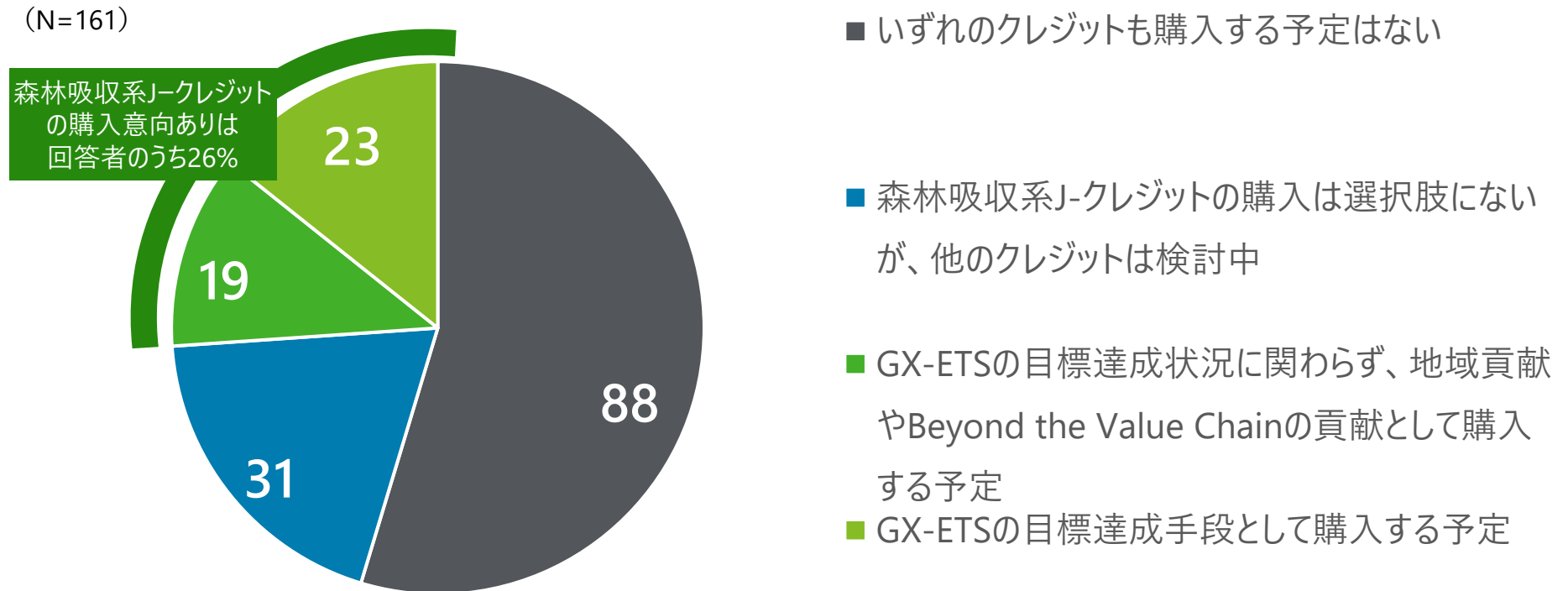


森林吸収系J-クレジットの
年度別認証量の推移



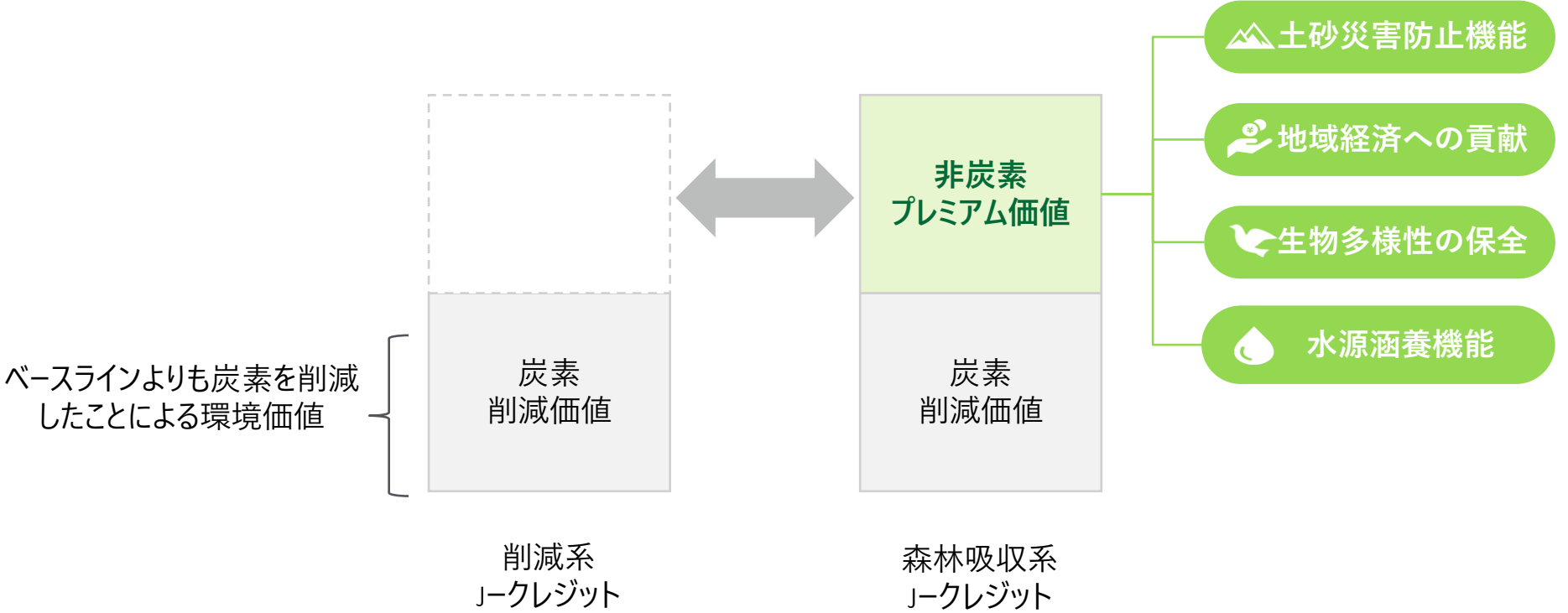
令和8年度から本格稼働が予定されている排出量取引制度（GX-ETS）では、J-クレジットが目標達成に活用可能であることが公表されており、今後、森林吸収系J-クレジットの需要拡大が期待されています

GXリーグ参画企業を対象とした森林吸収系J-クレジットの購入意向調査結果 （GX-ETS参加義務化方針が打ち出される以前の調査）



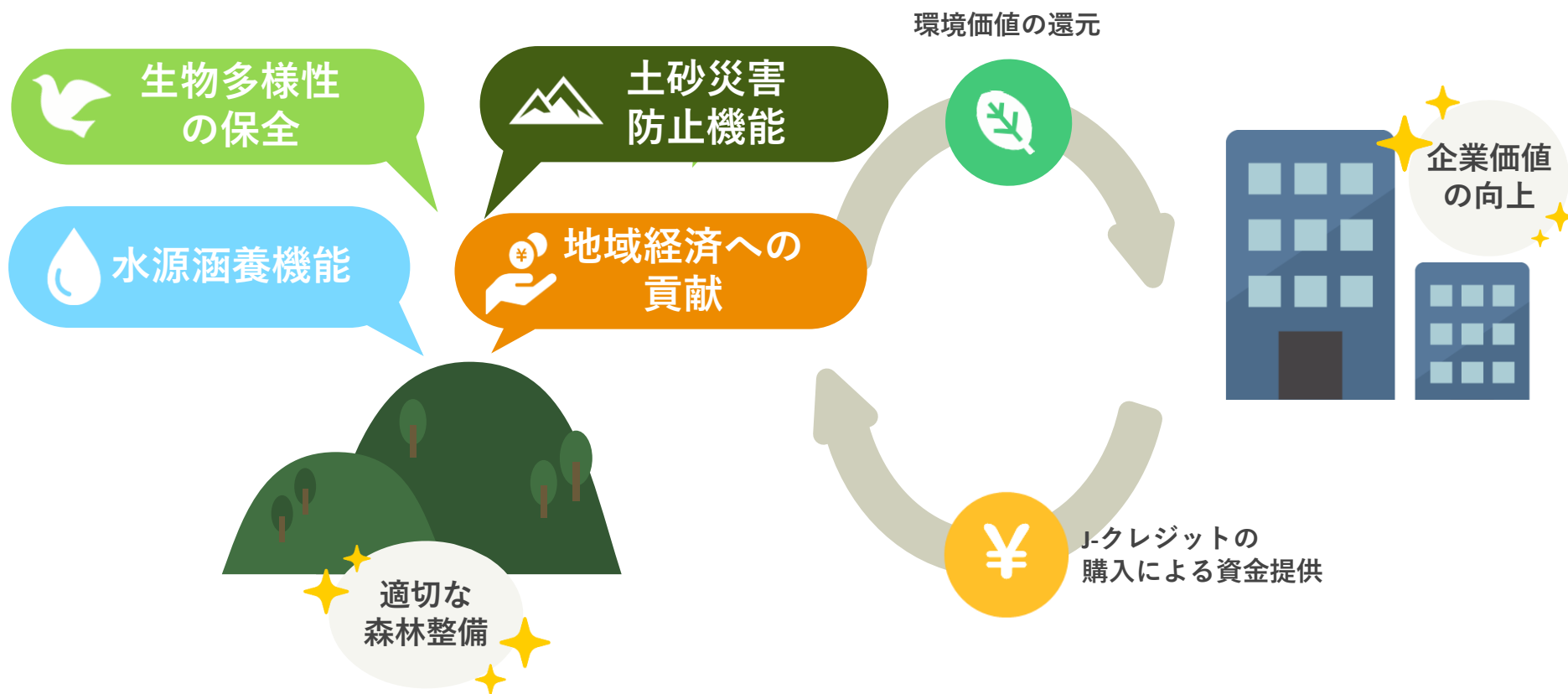
森林吸収系J-クレジットを購入・活用することは、単なる炭素削減価値に加えて、森林整備を通じた生物多様性の保全等森林の有する多面的機能の発揮や地域経済へ貢献する効果（非炭素プレミアム価値）もあります

森林吸収系J-クレジットの価値のイメージ



非炭素プレミアム価値は、創出者においては需要家が購入する動機付けや適正な販売価格の形成、需要家においては企業価値向上の面でその価値が期待されています

森林吸収系J-クレジットの価値のイメージ



森林吸収系J-クレジットの取引拡大に向けては、個々のプロジェクトが持つ非炭素プレミアム価値をストーリー化して、対外的に発信することが重要であり、非炭素プレミアム価値の効果的な発信方法やそのために必要としている情報等、創出者と需要者双方のニーズを把握し、マッチングを強化することが必要です

取引拡大のポイント

- 創出者は需要家に対して、どのように非炭素プレミアム価値を発信すべきか

創出者



需要家



投資家・他企業・
一般消費者・
地域住民等



取引拡大のポイント

- 森林吸収系J-クレジットの活用を発信するにあたり、需要家は創出者に対して、どのような情報を付与することを求めるべきか

活用拡大のポイント

- 需要家は、ステークホルダー等に対して、どのように非炭素プレミアム価値を発信すれば、効果的か

パネルディスカッションテーマ①

森林吸収系J-クレジットへ非炭素プレミアム価値の観点加わることで期待される可能性について

パネラーの皆様への質問

- ❑ 森林吸収系J-クレジットの非炭素プレミアム価値の意義を需要者、さらには投資家・他企業・地域住民・一般消費者等に伝えることについて、特に効果的だった公表方法や効果、逆に効果が薄かったもの等はあるか。
- ❑ 更なる森林吸収系J-クレジットの活用を進める上で、今後どのような形で非炭素プレミアム価値を訴求し、効果を期待しているか。



パネルディスカッションテーマ②

非炭素プレミアム価値訴求における創出・需要者の連携について

パネラーの皆様への質問

森林吸収系J-クレジットの活用拡大に向けて、非炭素プレミアム価値訴求の観点では創出者・需要者の連携はどのような形が求められるか。



End of Material